

公開実用 昭和 59— 124524

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑯ 公開実用新案公報 (U)

昭59—124524

⑰ Int. Cl.³

A 61 F 13/18

A 41 B 13/02

識別記号

庁内整理番号

6737—4C

7149—3B

⑱ 公開 昭和59年(1984)8月22日

審査請求 未請求

(全 頁)

⑲ 体液処理用品

⑳ 考案者 野崎哲

川之江市金田町半田乙385—1—3

㉑ 実願 昭57—156148

㉒ 出願 昭57(1982)10月15日

㉓ 出願人 ユニ・チャーム株式会社

川之江市金生町下分182番地

㉔ 考案者 鈴木磨

川之江市川之江町2666番地

㉕ 代理人 弁理士 白浜吉治

明 細 書

1. 考案の名称

体液処理用品

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 吸収体と、該吸収体の表裏面部を覆うシートとからなり、少なくとも表面部シートが液透過性を有する体液処理用品において、前記表面部シートと前記裏面部シートとが前記吸収体の厚さ方向に部分的に喰込む状態で互に直接または該吸収体を介して一体的に接着固定され、かつ該固定部分が少なくとも前記表面部シートの平面から陥没していることを特徴とする前記処理用品。

(2) 接着固定部分が吸収体の片面の吸収面積の20%以下の割合を占めるように存在している実用新案登録請求の範囲第1項記載の体液処理用品。

(3) 接着固定部分の該固定は熱溶着手段でなされている実用新案登録請求の範囲第1項記載の体液処理用品。

(4) 接着固定部分の該固定は疎水性接着剤でなされている実用新案登録請求の範囲第1項記載の

体液処理用品。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、おむつ、生理用ナプキンなどの体液処理用品の改良に関する。

従来一般に表裏面部シートで覆われる吸収体を有する体液処理用品が実用に供されており、これには、表裏面部シートと吸収体とは全く固定されず、吸収体が存在しない周辺部で該両シートが接着固定されることによって全体が一体化されたものと、これに加えて、該両シートの一方または両方が水溶性接着剤で接着固定されたものがある。しかし、後者のものであっても、体液を吸収したとき、あるいは吸収しない状態でも僅かの変形外力が加わったときには、前記接着固定部分がきわめて容易に剝離し、実際の使用時には接着一体化の効果がえられていない。したがって、従来の体液処理用品は、使用中の変形外力によって、吸収体が解繊パルプマットである場合には、該マットがきわめて容易に型崩れし、いわゆるダマ状になってしまい、また表面部シートが吸収体の表面か



らきわめて容易に遊離するため吸収速度が低下し、かつ表面部シートに体液が過剰に滞留していわゆるベトツキが生じ、さらには使用者の肌に表面部シート状部が常時はりつき、その結果、皮膚炎を起す原因ともなっている。

本考案の目的は、前述のごとき欠点を解消することができる体液処理用品を提供することにある、その目的を達成するための本考案の要旨は、吸収体と、該吸収体の表裏面部を覆うシートとからなり、少なくとも表面部シートが液透過性を有する体液処理用品において、前記表面部シートと前記裏面部シートとが前記吸収体の厚さ方向に部分的に喰込む状態で互に直接または該吸収体を介して一体的に接着固定され、かつ該固定部分が少なくとも前記表面部シートの平面から陥没していることに存する。

さらに本考案を図示の実施態様にもとづいて説明すると、以下のとおりである。

第1図は本考案にかかる体液処理用品の外観図、第2図は第1図X-X線における拡大断面図、第



3 図は第 1 図 X - X 線における別の態様の拡大断面図である。

第 1 図、第 2 図に示されている各態様の処理用品 1 は、吸収体 2 と、これを覆う液透過性シート 3 とからなっている。しかし、処理用品¹としては、従来の使い捨ておむつ、生理用ナプキンなどの構造として一般に知られているごとく、表面部に液透過性シートが、かつ裏面部に液不透過性シートが配置されているか、または第 1 図に示されている構造において、吸収体 2 の少なくとも裏面部とこれに対向する液^過透性シート 3 の部分との間に液不透過性シートが配置されたものも、本考案の対象とされるものである。そして互に別体をなす表面部シートと裏面部シートとが用いられる場合には、該両シートは、吸収体 2 の周辺から延出する部分において熱溶着手段、接着剤などで接合されることも従来のものと同じである。

また吸収体 2、液透過性シート 3、前記液不透過性シートは、従来一般に使い捨ておむつ、生理用ナプキンなどにおいて用いられる素材からなっ



ている。たとえば、吸収体 2 としては、解繊パルプ、これに水不溶性にして吸水性を有する粉末状ポリマーが混合されたものなど、液透過性シート 3 としては、不織布、和紙、化繊紙などが、前記液不透過性シートとしては、合成樹脂フィルム、該フィルムと不織布または紙とのラミネート、いわゆる防水紙などがそれぞれ用いられる。

第 2 図に示されている態様の処理用品 1 においては、液透過性シート 3 の表面部 3 a と裏面部 3 b とが吸収体 2 の厚さ方向に部分的に喰込む状態で互に直接接着固定されている。

第 3 図に示されている態様の処理用品 1 においては、液透過性シート 3 の表面部 3 a と裏面部 3 b とが吸収体 2 の厚さ方向に部分的に喰込む状態で吸収体 2 を介して接着固定されている。

前記何れの態様の処理用品 1 においても、接着固定部分 4 は、表面部 3 a 、裏面部 3 b の平面から陥没している。このような陥没状態は、処理用品 1 をその厚さ方向に表裏面部から機械的に押圧することによって形成され、接着固定部分 4 の該



固定は、体液で容易に剝離しないように熱溶着手段、疎水性接着剤の何れかでなされる。接着固定部分 4 は、吸収体 2 の表裏面の一方の吸収面積の 20 % 以下の割合を占めるように存在していることが好ましく、20 % 以上の場合には、処理用品 1 の吸収性、柔軟性が低下する。接着固定部分 4 の型態は任意であって、たとえば、第 4 図に示されているごとき模様を有するものが付与される。

上述のごとき構成を有する本考案によれば、表裏面部シートが部分的に一体的に接着固定され、その接着固定部分が、体液処理用品の湿潤下でも、さらには該処理用品に変形外力が加わったような場合でも、剝離することがなく、そのためまた表面部シートが吸収体の表面から遊離することなく常に該吸収体に密着されているから、既述した従来品が有する欠点がことごとく解消される。また前記接着固定部分は、前記表面部シートの平面から陥没しているから、使用者の肌に接着して不快感を与えることもないなどの効果を有し、実用に供してきわめて有益である。



4. 図面の簡単な説明

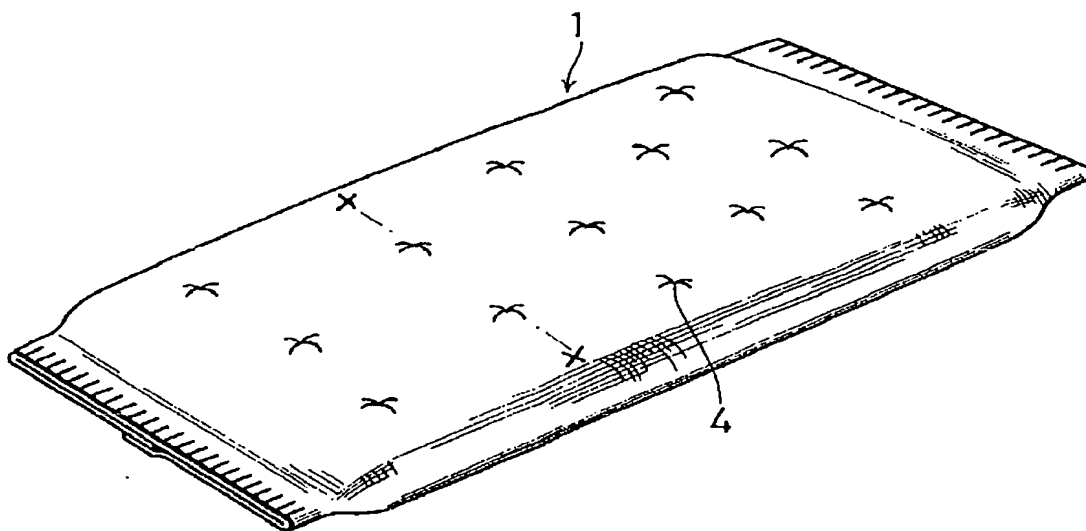
第1図は本考案にかかる体液処理用品の外観図、第2図は第1図X-X線における拡大断面図、第3図は第1図X-X線における別の態様を示す拡大断面図である。

1…体液処理用品、2…吸収体、3…液透過性シート、4…接着固定部分。

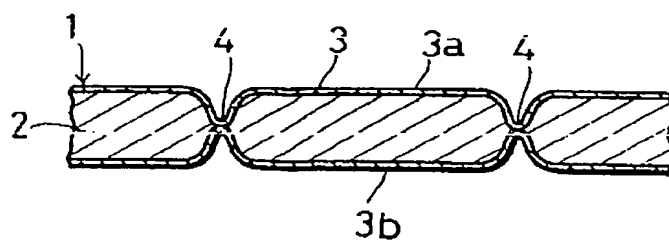
代理人 弁理士 白 浜 吉 治



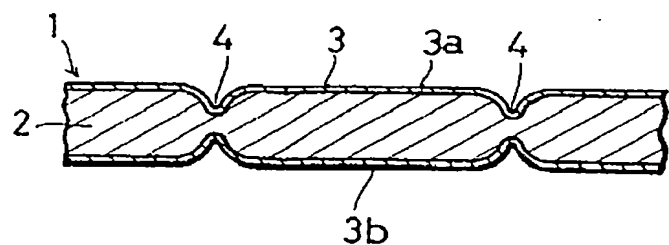
第 1 図



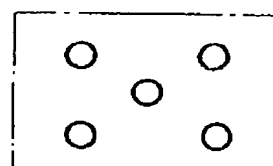
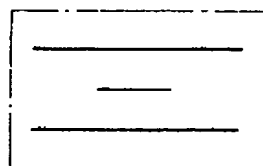
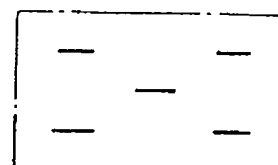
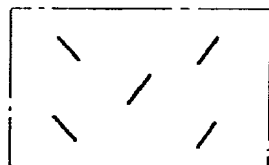
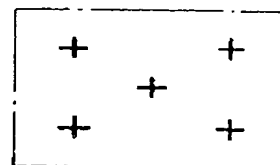
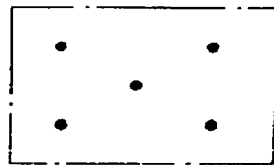
第 2 図



第 3 図



第 4 圖



手 続 補 正 書 (方式)

昭和59年3月19日

特許庁長官 若杉和夫 殿

1. 事件の表示

昭和57年実用新案登録願第156148号

2. 考案の名称 体液処理用品

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

フリガナ
住 所

フリガナ
氏 名 (名称) ユニ・チャーム株式会社

4. 代 理 人

住 所 東京都港区新橋3丁目12番10号 馬場ビル

氏 名 (6626) 弁理士 白 浜 吉 治



5. 補正命令の日付 昭和59年2月1日(同年2月21日発送)

6. 補正により増加する発明の数

7. 補正の対象

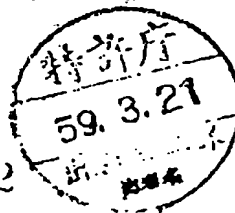
「図面の簡単な説明」の欄

8. 補正の内容

別紙の通り

162

実開59-124524





図面の簡単な説明の欄を次の通り補正する。

明細書第7頁第5行の「大断面図」の次に、
「、第4図は接着固定部分の型態例を示す平面図」
を加入する。